



私たちは幸せになれる？

東日本大震災の遺族自らが
二つの手法で描く〈故郷〉と〈災害〉。

『春をかさねて』(2019年・劇映画)

宮城県石巻市出身・佐藤そのみ監督作品

春をかさねて あなたの瞳に話せたら



『あなたの瞳に話せたら』(2019年・ドキュメンタリー)



春をかさねて

(2019年/45分/劇映画)

震災から1ヶ月が過ぎた、とある被災地。津波で妹を亡くした14歳の祐未は、この経験を発信しようと、次から次へと訪れる記者からの取材に応じていく。一方で、同じく妹を亡くした幼馴染・れいは、東京からやってきたボランティアの大学生へ恋心を抱き、メイクを始める。ある放課後、祐未はそんな彼女への嫌悪感を吐露してしまう。

監督・脚本・編集 佐藤そのみ
撮影 織田知樹 李秋実
出演 齋藤小枝 齋藤桂花 齋藤由佳里
芝原弘 秋山大地 安田弥央



あなたの瞳に話せたら

(2019年/29分/ドキュメンタリー)

東日本大震災で多くの犠牲を出した“石巻市立大川小学校事故”にまつわるドキュメンタリー。撮影は、震災から8年半が過ぎた2019年12月。大川小で友人や家族を亡くした当時の子どもたちは、あれから何を感じ、どのように生きてきたのか。それぞれが故人に宛てた手紙を織り交ぜながら、自身も遺族である「私」が、カメラを持って向き合う。

監督・撮影・編集 佐藤そのみ

東京ドキュメンタリー映画祭 2020
短編部門「準グランプリ」「観客賞」受賞作
イメージフォーラム・フェスティバル 2020
ヤング・パースペクティヴ2020 入選作



監督：佐藤そのみ

1996年、宮城県石巻市に生まれる。幼少期から物語を書くことに熱中し、小学生の時に地元で映画を撮ることを志す。2011年の東日本大震災で、石巻市立大川小学校に通っていた2歳下の妹を亡くす。2015年、日本大学芸術学部映画学科に進学し、地元で数本の劇映画やドキュメンタリー映画を制作。大学休学中に撮影した『春をかさねて』(2019)と卒業制作『あなたの瞳に話せたら』(2019)は各地で上映されている。現在は東京都在住。

■「ある春のための上映会」

『春をかさねて』『あなたの瞳に話せたら』の上映を行う会。上映後には映画出演者や関係者によるトークも企画し、これまで宮城・高知・長野・岐阜・東京・和歌山・群馬などで開催されてきた。「ある春」=2011年3月11日のこと、また、今は辛い境遇にいる人もいつか前を向いて自分の幸福のために生きていけるようになる時期(季節)のこと。東日本大震災について考えると同時に、一人一人が自分自身をやさしく見つめられる時間になってほしい、という願いが込められている。

公式サイト：aruharufilm.tumblr.com
X(旧 Twitter)：@aruharufilm
Facebook：https://www.facebook.com/aruharufilm/



↑最新上映情報は
こちらから